

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 例年より早い時期にインフルエンザの報告数が増加しています。
- RSウイルス感染症の報告数が急増し、依然として例年より大幅に多い状態が続いています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

全数把握の対象

【10月期に報告された全数把握疾患】

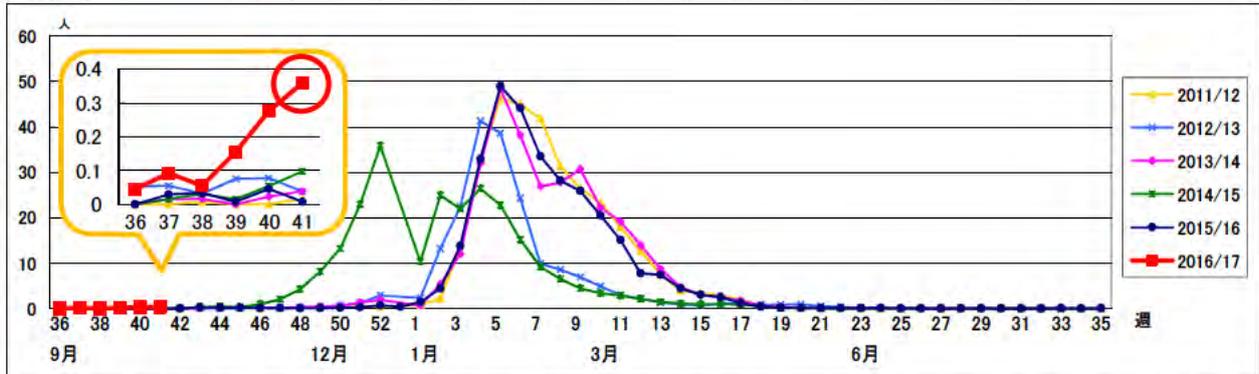
腸管出血性大腸菌感染症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	1件	梅毒	16件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が5件あり、うち3件は無症状病原体保有者でした。
- レジオネラ症: 6件の肺炎型の報告がありました。
- アメーバ赤痢: 2件の報告があり、1件は国外での経口感染が推定され、1件は感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 1件の報告があり、病原体不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群が1件報告され、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 同性間の性的接触による無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 4件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る): 臨床診断例が1件、検査診断例が1件報告されています。臨床診断例はワクチン接種歴が確認されましたが、検査診断例はワクチン接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒: 16件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件)がありました。うち国内の感染が15件、感染地域不明1件でした。感染経路は、同性間性的接触が2件、異性間性的接触が10件、詳細不明の性的接触が2件、感染経路不明が2件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1件の報告があり、以前からの保菌と推定されています。

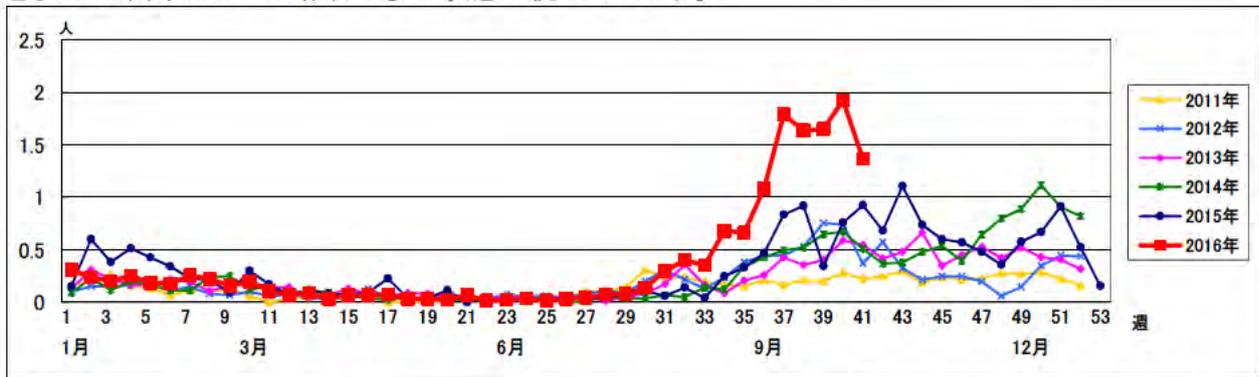
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第39週	9月26日～10月2日
第40週	10月3日～10月9日
第41週	10月10日～10月16日

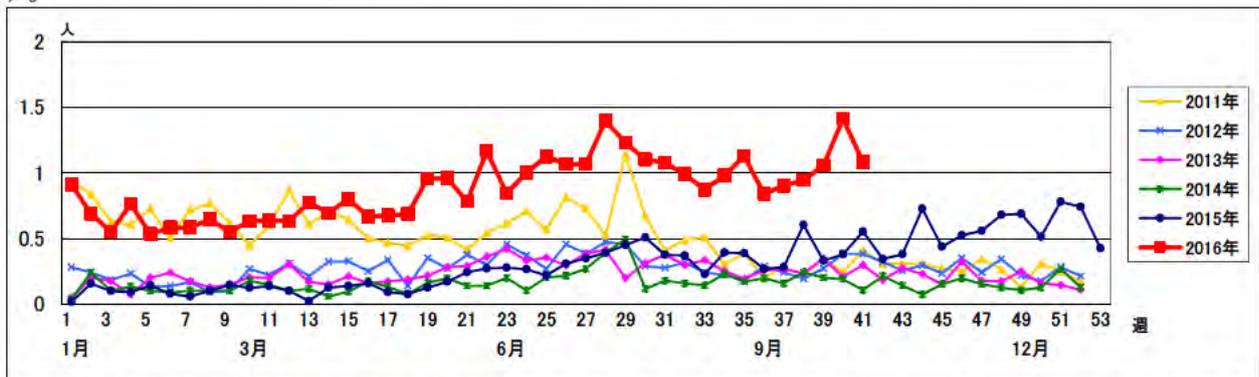
- 1 インフルエンザ: 第39週で定点あたり0.15、第40週で0.28、第41週で0.36と、例年に比べて早期に報告が増加しています。また、第40週で2016/17シーズン初の学級閉鎖の報告がありました(2015/16シーズン、2014/15シーズンは第43週、2013/14シーズンは第50週、2012/13シーズンは第2週)。



- 2 RSウイルス感染症: 第40週までに定点あたり1.92と、例年に比べて急激かつ大幅に増加しており、第41週も1.36と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 3 流行性耳下腺炎: 第41週で定点あたり1.08と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 性感染症: 9月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が2件でした。
- 5 基幹定点週報: 無菌性髄膜炎は第39週0.25、第40週0.00、第41週0.00と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第39週1.00、第40週0.00、第41週3.00と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 9月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が1件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点40件、内科定点11件、眼科定点11件、基幹定点11件で、定点外医療機関からは5件でした。

11月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株6件と遺伝子34件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	感 染 性 胃 腸 炎	急 性 脳 炎	そ の 他 症 例
インフルエンザ AH3型			4			1	1	1
パラインフルエンザ 1型	1							
パラインフルエンザ 2型	2							
RS	3	11						
ヒトメタニューモ		1						
ライノ	7	1						2
コクサッキー A 5型					1			
コクサッキー A 6型				2				
コクサッキー B 3型	1							
コクサッキー B 5型	1							
合計	2 13	13	4	2	1	1	1	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

10月の感染性胃腸炎は、小児科定点から2件、基幹定点から8件、その他が11件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2が7件、O157:H7,VT1&2が2件、O157:H-,VT1&2が1件、O157:H-,VT2が1件)、サルモネラ(*S. Typhimurium*、*S. Saintpaul*、*S. Infantis*、*S. Virchow*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から4件、その他から29件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌の5株およびG群溶血性レンサ球菌の2株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は4株とも*Legionella pneumophila* 1群、バンコマイシン耐性腸球菌は全て*vanA*遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	10月			2016年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					1	2
腸管出血性大腸菌			11		7	60
腸管毒素原性大腸菌					2	
腸管凝集性大腸菌					2	
チフス菌					2	
サルモネラ	2	3		3	25	2
カンピロバクター						1
黄色ブドウ球菌					1	
NAGビブリオ						1
不検出	0	5	0	0	57	18
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	10月			2016年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1	4		3
T1						
T3				1		
T4				2		
T6				1		
T12				3		1
T B3264	1		4	1		4
型別不能	1			13		2
B群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌		1	1		3	6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1		4	1
バンコマイシン耐性腸球菌			9		1	11
レジオネラ属菌		1	3		1	6
インフルエンザ菌						6
肺炎球菌			2		5	40
黄色ブドウ球菌				1		
結核菌			2			188
百日咳菌					2	
ボツリヌス菌						1
その他		2	3		16	49
不検出	2	0	3	6	14	40

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】